

1st Circular

2021年7月10日

\*\*\*\*\*

## 第21回東京科学シンポジウム

# テーマ： コロナ危機の時代を生きる

### — 科学・人権・市民的連帯 —

開催日時：2021年11月27日(土)～11月28日(日) ※翌週に変更の可能性があります

開催場所：会場未定 ※現時点では会場でのリアル開催(一部オンライン配信)を予定しています

主催：日本科学者会議東京支部

\*\*\*\*\*

## 第21回東京科学シンポジウムの開催にあたって

実行委員長 米田貢

日本科学者会議東京支部が隔年で開催してきた東京科学シンポジウムは、今年21回目を迎えます。東京支部は、第16回以降「理性と希望の平和な時代を拓く」というメインテーマを掲げ、その時々の政治・経済・社会・学術の情勢をふまえたサブタイトルをつけて開催してきました。今回はそのスタイルを思い切って変え、私たちが今直面している最大の危機、COVID-19によるコロナ危機そのものに焦点をあて、それを日本科学者会議らしく多面的な視角から分析・解明することにしました。テーマは、「コロナ危機の時代を生きる—科学・人権・市民的連帯—」とします。

2019年末に発生したコロナ危機による世界の確認感染者数は、2021年7月2日時点で約1億8626万人、死亡者数は約395万人に達し、まさにパンデミックと呼ぶべき大災害となっています。しかも、ワクチン接種が先進国を中心に進んでいるにもかかわらず、感染力を強化した変異株の出現によって感染拡大の新たな波が生じています。コロナ危機はいつ、どのような形で収束するのか、人類はいまだ明確な将来展望がもてない困難な状況にあります。

世界中で感染症の研究者や医師・看護師などの医療関係者が、市民のいのちを守るために必死の取組をし、多くの市民もそれに呼応して感染抑止のための「巣ごもり」生活を受け入れ、いっそう深刻化する格差と貧困に対して市民的連帯が広がっています。そのさなか、米国やブラジルでは、大統領が科学的根拠に基づく専門家のマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保などの提案を無視して一般市民との密接な接触を続け、感染拡大に油を注ぎました。新自由主義による深刻な社会的格差の拡大が生み出したポピュリズムは、いのちにかかわる問題で科学を信頼しない政治が横行することの危険性を示しています。

2021年7月2日時点で感染者数が80万3241人、死亡者数が1万4826人の日本でも、政治と科学との関係が問われています。厚生労働者・日本政府は、国際的に感染症対策のゴールドスタンダードと位置づけられているPCR検査を一貫して制限・抑制してきました。感染者の7割～8割が無症状、軽症にとどまり、彼らが感染を自覚することなく普通の生活をすることによって家族、友人、同僚に感染を広げていくというCOVID-19の特性を無視したこの非科学的な対応が、日本における感染拡大を助長していることは明らかです。世界的にも、日本国内においても感染拡大の新たな波の到来が懸念されるなかで、日本政府とIOCは、専門家の警告を聞かず、「3密の回避」政策と明確に対立する東京オリンピック・パラリンピックを強行しつつあります。このような日本政府とIOCの姿勢は、いのちと基本的人権を軽視し、「人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進する」というオリンピック憲章を全面的に踏みにじるものです。

ロックダウン（都市封鎖）か、より緩やかな自粛要請かは別として、コロナ危機に対して各国政府は「3密の回避」政策を一般的に遂行してきました。ヒトは本来社会的存在であり、現代の市民は、家庭、学校、職場、地域等の社会空間で、そして政治、経済、市民社会、文化等の社会領域で、多くの他者と日常的に接触・交流することによって、個人としての自立性を保持しています。学校での対面授業がオンライン授業に替わり、職場での集団的な業務遂行が家庭でのテレワークに替わり、居酒屋やカフェでの飲み会がオンライン呑み会に替わる。ポストコロナの時代に人々の生活と労働の様式はどのように変化するのか？その変化は、個人と社会にどのような影響を及ぼすのか？まさに学際的な共同研究が求められています。

もちろん、コロナ危機をメインテーマに掲げたからと言って、従来からの自由な分科会の設置が排除されるわけではありません。リニア建設をめぐる静岡県知事選挙で示された水資源を守れとの県民の声、全国一律の最低賃金の大幅引き上げを求める労働運動、学術会議への政府の不当な介入問題等、科学者として解明し、市民とともに取り組むべき課題は目白押しです。会員の皆さんが分科会を積極的に設置されることを呼びかけます。

## 今後のスケジュール（予定）

- 7月10日 1st Circular 発行（テーマ、開催日〔予定〕を発表。分科会設置を呼びかけ）。
- 8月15日 分科会開設の締切
- 9月10日 2nd Circular 発行（開設する分科会を公表。分科会発表者を募集）。
- 10月5日 分科会発表者の応募締切
- 10月25日 分科会発表者の予稿の提出締切
- 11月10日 3rd Circular 発行（最終プログラムを公表。参加者を募集）。
- 11月下旬 予稿集発行 ※オンライン開催の場合は電子ファイルをダウンロード
- 11月27日～28日 第21回東京科学シンポジウム。  
※今後、会場を確定する過程で翌週(12月4日～5日)に変更する可能性があります。

※東京科学シンポジウムは東京支部の今年最大の企画であり、会員が日頃の研究の成果を発表する場でもあります。初めての方も歓迎します。会員の皆さん、どしどし分科会開設にお申し込みください。（申し込み方法は次ページを参照）

会場での開催を予定していますが、一部企画をオンライン参加可能にする可能性を検討しています。また、新型コロナウイルス感染症の状況によっては全面的にオンライン開催とする可能性があります。いずれにしても分科会は開催予定です。

## 今回シンポジウムの主な企画

特別報告（2つ程度）、分科会（20程度）などを予定しています。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては変更の可能性があります

## 分科会の公募

分科会設置希望者は、名前、所属（or 分会）、連絡先（メールアドレス）、分科会名、設置趣旨（200字程度）を記して実行委員会まで申し込んでください。

## 分科会公募の締切

○分科会公募の締め切りは 2021年8月15日（日）とします。

○申込は原則としてeメール（アドレス：21st-kagaku@jsa-tokyo.jp）とします。

## 各種イベントの企画

プレ企画や当日のイベントとして、各種の展示と交流の場などの企画を検討しています。ご意見をお寄せください。

---

### 第21回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光（支部常任幹事）、小尾晴美（支部幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、葛谷泰慣（支部幹事）、○佐久間英俊（支部事務局長）、堂野崎衛（支部幹事）、中島明子（支部代表幹事）、中西大輔（支部幹事）、中野貞彦（支部常任幹事）、真嶋麻子（支部幹事）、松永光司（支部幹事）、峰尾菜生子（支部常任幹事）、森原康仁（支部常任幹事）、吉村さくら（支部常任幹事）、◎米田貢（支部代表幹事） ◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

---

日本科学者会議東京支部 第21回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax：03-3811-8281

e-mail：21st-kagaku@jsa-tokyo.jp

---